

平成22年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成22年10月14日
愛 知 県

- 1 病害虫名：ミカントゲコナジラミ（チャ系統）
Aleurocanthus spiniferus (Quaintance)
- 2 発生作物：サザンカ、ツバキ類
- 3 発生地域：尾張地域
- 4 発生確認の経過

平成22年6月、(独)農研機構野菜茶業研究所(金谷)を事務局とするミカントゲコナジラミ研究推進連絡会から、本県の業者から購入したチャ苗木にミカントゲコナジラミ幼虫の寄生を確認したとの連絡があった。

当該チャ苗木の流通ルート等を確認したところ、ミカントゲコナジラミ(チャ系統)の既発生県から購入したチャ苗木が県内複数の業者を介して他県に出荷されていたことが判明した。また、本種既発生県から直接チャ苗木を購入した業者のほ場を6月下旬に調査したところ、チャ苗木はすべて出荷済みであったが、周辺のサザンカにおいて、コナジラミ幼虫の寄生を確認した。このコナジラミを久留米大学上宮健吉博士に同定依頼したところ、ミカントゲコナジラミ(チャ系統)と同定された。

これを受けて、7月から10月にかけて現地生産ほ場、及びその周辺を調査したところ、尾張地域の複数のサザンカ類生産ほ場と周辺の神社境内、民家の庭のツバキ類、サカキで本種の生息を確認した。

本種は、カンキツ加害系(ミカン、ブドウ、ナシ等を加害)とチャ加害系(チャ、サザンカ、ヒサカキ等を加害)に形質の差異が認められており、後者は「チャ系統」として区別される。チャ系統は平成16年に京都府で初めて確認され、その後、滋賀、奈良、三重、島根、福岡、埼玉、岐阜、大分、岡山及び兵庫の各県で確認されている。

なお、現在のところ本県ではチャ園での発生を認めていない。

5 形態及び生態

成虫の体長は雌1.3mm、雄はそれよりやや小さく、体は橙黄色であるが白粉でおおわれる。前翅は紫褐色で不整形の白斑がある(図1)。卵は長さ約0.2mmで勾玉状、短い卵柄がある。孵化幼虫は淡黄色で、定着すると光沢のある黒色になり、4齢を経て成虫になる。老齢幼虫は長さ約1mmで、周囲と背面に多数の刺毛があり、周囲の白色ロウ物質が明瞭になる(図2)。

本種は年3回程度発生し、成虫の発生時期は越冬世代が5月中旬、第1世代が7月中旬、第2世代が8月下旬から9月上旬頃とされている。その年の気候や地域により第3世代の成虫が10月中下旬に発生することもある。成虫の寿命は約4日間と短く、新葉の葉裏に産卵することが多い。

6 被害

成虫及び幼虫によって葉が吸汁加害されるほか、幼虫の排泄物による葉のすす状障害が併発する。

7 防除対策

サザンカ、ツバキ類において本種に対する登録薬剤はない。

ミカントゲコナジラミ(チャ系統)の既発生県からサザンカ、ツバキやチャ苗を購入する場合は、本種の寄生がないか必ず確認すること。

本種の卵及び若齢幼虫は微小で、葉裏に産卵・寄生するため、成虫やすす状の障害が発生するまで気づかず、発見が遅れやすい。定期的にはほ場を観察し早期発見に努める。

発生を認めた場合は布等を用い葉に寄生する幼虫を擦り取るか、下葉の場合は寄生葉を切除する。なお、除去した寄生葉は発生源になるため放置せず、土中に埋却する等、必ず

適切な処分を行う。

本種の未発生地域への蔓延を防ぐため、サザンカ等の苗木を出荷する際は、本種の寄生がないか確認すること。

8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ

電話 0561-62-0085 内線471



図1 ミカントゲコナジラミ成虫



図2 ミカントゲコナジラミ卵、幼虫

参考資料

- (1) 梅屋献二・岡田利承編：日本農業害虫大事典(2003)，全国農村教育協会
- (2) ミカントゲコナジラミ既発生府県病害虫発生予察特殊報